

地域特産種量産放流技術開発（要約） （タイワンガサミ）

與那嶺盛次・牧野清人・岩井憲司*

タイワンガサミの資源増加を図るため、人工種苗の放流技術開発や漁業実態調査等を実施した。

調査結果は平成9年度地域特産種量産放流技術開発事業総合報告書に報告しているのので、ここでは要約のみを記した。

1. 今年度は与那城町海中道路南側の干潟水域に平均全甲幅28.2～39.9mmの体内標識稚ガニ7,372尾を放流した。台風のため放流尾数を調べずに放流した事例があった。
2. 放流稚ガニは、放流した夜には放流区内の密度が急激に減少し、ほとんど逸散した。
3. 平成8年度第3回次の標識放流群（10,550尾）の再捕は、28尾でほとんど放流数日以内であったが、22日目に1尾（全甲幅49.7mm）、98日目に1尾（全甲幅72.5mm）、312日目に2尾（全甲幅108.4、

131.2mm）あった。312日目の再捕は、与那城町漁協市場で探知器によって確認され、放流ガニの漁獲が明らかになった。

4. 与那城町漁協に水揚げされたタイワンガザミは雌雄とも夏場に小型個体が多く、冬場に大型個体が多かった。
5. 与那城町漁協と周辺4漁協の1997年のタイワンガザミ漁獲量は0.8～9.9トンで、与那城町漁協が最も多かった。
6. 与那城町漁協のタイワンガザミ漁獲量はここ数年間増加傾向にあったが、1996年に引き続き1997年も減少した。
7. 与那城町漁協と周辺4漁協の1997年のタイワンガザミ平均単価は、590～828円で中城漁協を除き各漁協とも前年より高くなった。与那城町漁協は662円の4位であった。

*：非常勤職員